

Q

○延久の荘園整理令と荘園公領制○

1068年摂政・関白を**外戚としない**(a ) 天皇が即位した。天皇は大江匡房らのすぐれた人材を登用し、1069年(b ) 令をだし、**記録荘園券契所**を設けて、基準にあわない荘園を摂関家の荘園も例外なく停止した。これによって荘園と公領の区別が明確になった。

●院政の開始●

[1 天皇]も親政(天皇自ら政治を行うこと)を行ったが、1086(応徳3)年、自身の幼少の子、堀河天皇に位をゆずると、[2 ] (院)として院序をひらき、天皇を後見しながら政治の実権をにぎる[3 ]の道をひらいた。上皇は荘園整理を歓迎する**国司(受領)**たちを支持勢力にとり込み、**人事をにぎって**院の御所に[4 ]を組織して源氏や**平氏の武士**を側近にするなど、院の権力を強化した。

院政では、院序からだされる**院序下文**や、上皇の命令を伝える[5 ]が効力を持つようになった。院政は、もともと自分の子孫に皇位を継がせようとするところからはじまったが、法や慣例にこだわらずに院が政治を専制的に(自分の独断で)行うようになり、鳥羽上皇・後白河上皇と(6 )年余りも続いた。

**上皇は仏教をあつく信仰**し、出家して[7 ]となり、**六勝寺**(6つの勝の字が着く寺)など多くの大寺院や堂塔・仏像をつくって盛大な法会をおこない、紀伊の[8 ]や高野詣をくり返した。また京都郊外の白河や鳥羽に離宮を造営したが、費用を調達するために成功などの売位・売官(位や官職を売ること)がさかんになった。

●院政期の社会●

上皇のまわりには、富裕な受領や后妃・乳母の一族など[9 ]とよばれる一団が集まり、上皇の力を借りて収益の豊かな国の国司などの官職に任命された。とくに鳥羽上皇の時代になると、**院の周辺に荘園の寄進が集中**したばかりでなく、有力貴族や大寺院への荘園の寄進も増加した。また、**不輸・不入の権**を持つ荘園も一般化し、**荘園の独立性**が強まった。このころには[10 ]の制度や、院自身が国の収益をにぎる**院分国**の制度が広まって、公領は院や[10 ]主・国司の私領のようになり、院政を支える経済的基盤となった。

大寺院も多くの荘園を所有し、下級の僧侶を[11 ]として組織し、国司と争ったり、神木や神輿(おみこし)を先頭に立てて朝廷に[12 ]して、要求を押し通そうとした。貴族は**武士**を用いて警護や鎮圧にあたらせたため、**武士**の中央政界への進出を招くことになった。

地方では各地の武士が館を築いて、一族や地域の結びつきを強めるようになり、なかでも奥羽地方では、陸奥の[13 ]を根拠地として[14 ]の支配が強大となった。奥州藤原氏は、[15 ]・基衡・秀衡の3代 100年にわたって、**金や馬**などの産物の富で京都文化を移入したり、北方の地との交易によって**独自の文化**を育てたりと、**繁栄を誇った**。

こうして院政期には、私的な土地所有が展開して、院や大寺社、武士が独自の権力を形成するなど、広く権力が分化していくことになり、社会を実力で動かそうとする風潮が強まった。

○院政をささえた社会の仕組みを資料から考えよう

丸山窯跡でみつかった瓦と同じ瓦が鳥羽離宮跡からみつかるのはなぜか?

**ヒント**『扶桑略記』応徳三年(1086)10月20日条

「公家近來九条以南、鳥羽山莊新建後院、凡ト百余町焉、近習卿相待臣地下雑人等、各賜家地、营造舎屋、宛如都遷、讃岐守高階泰仲、依作御所已蒙重任宣旨」=「(白河院が)九条以南の鳥羽山莊に新しく後院を建てる。その面積は百余町あり、近習などに家土地が与えられ、さながら、都遷りのようである。**土地を備前守藤原季綱、御所を讃岐守高階泰仲が寄進したことにより重任を受けた。**

なぜ鳥羽離宮南殿の寄進が行われたのか?

国司の高階氏にとっては…

白河院にとっては…

○院が専制的な政治を行った院政の時期(12~13世紀)の社会の特色をまとめよう

① 寄進地系荘園の増加

荘園の急増(特に **鳥羽院以降**)…最大の荘園領主は \_\_\_\_\_  
**不 \_\_\_\_\_ ・ 不 \_\_\_\_\_ の権を獲得する荘園が増える**  
国司が公領(国衙領)を再編成→**荘園と公領はほぼ半々となる**  
\_\_\_\_\_ 国制度 ・ 院自身が知行国主になることも

② 法皇として仏教を信仰 **六勝寺、熊野詣**(くまのもうで)・高野詣(こうやもうで)  
→ ばくだいな費用 → \_\_\_\_\_ ・ 重任がさかんに行われる

③ 実力行使

大寺院は \_\_\_\_\_ を、「天下三大不如意」…「鴨川の水・双六の賽・山法師」となげいた)  
院は \_\_\_\_\_ を使った。

④ 地方では赴任しない国司(遥任国司)にかわって、**武士**が結びつきを強めた…例えば奥州藤原氏など

○このような社会の変化を図にしてみよう。

